

羅馬字にて日本語の書き方

羅馬字



W52-2

R 66

羅漢字の日本語の書

116297

羅漢字會

緒言

羅馬字會の書き方取調委員は人員四十名にして明治十八年二月三日始めて東京大學理學部に集會し外山正一氏を議長に寺尾壽氏を副議長に撰擧し又チャンバレーン氏イービー氏外山氏寺尾氏并に余等二人を書き方の原案を作る委員に撰みたり原案委員は博く内外の學士に意見を詢むて三たび集會し集議の席にはヘボン氏とテヒヨウ氏とを招待して其説を聽き熟議の上原案を作りたり書き方取調委員へ此原案を基として五ゑび會議を開き三月廿七日を以て書き方を議定し畢りたれば今之を清書し印刷に附して會員に

願つ

委員の議定したる書き方を閱するに次の三箇條に適ふこと明なり

(第一)羅馬字を用ふるには其子字は英吉利語に於て通常なる音を取り其母字は伊太利亞語の音(即ち獨逸語又は拉丁語の音)を採用する事

(第二)假名の用ひ方に據らずして發音に従ふ事

(第三)教育を受けたる東京人の間に行はるゝ發音を以て成るべきだけ標準とする事

委員は皆繁務なる人なれども非常の盡力を以て遂に諸人が簡便にして實地に適當せりと認むる所の書き

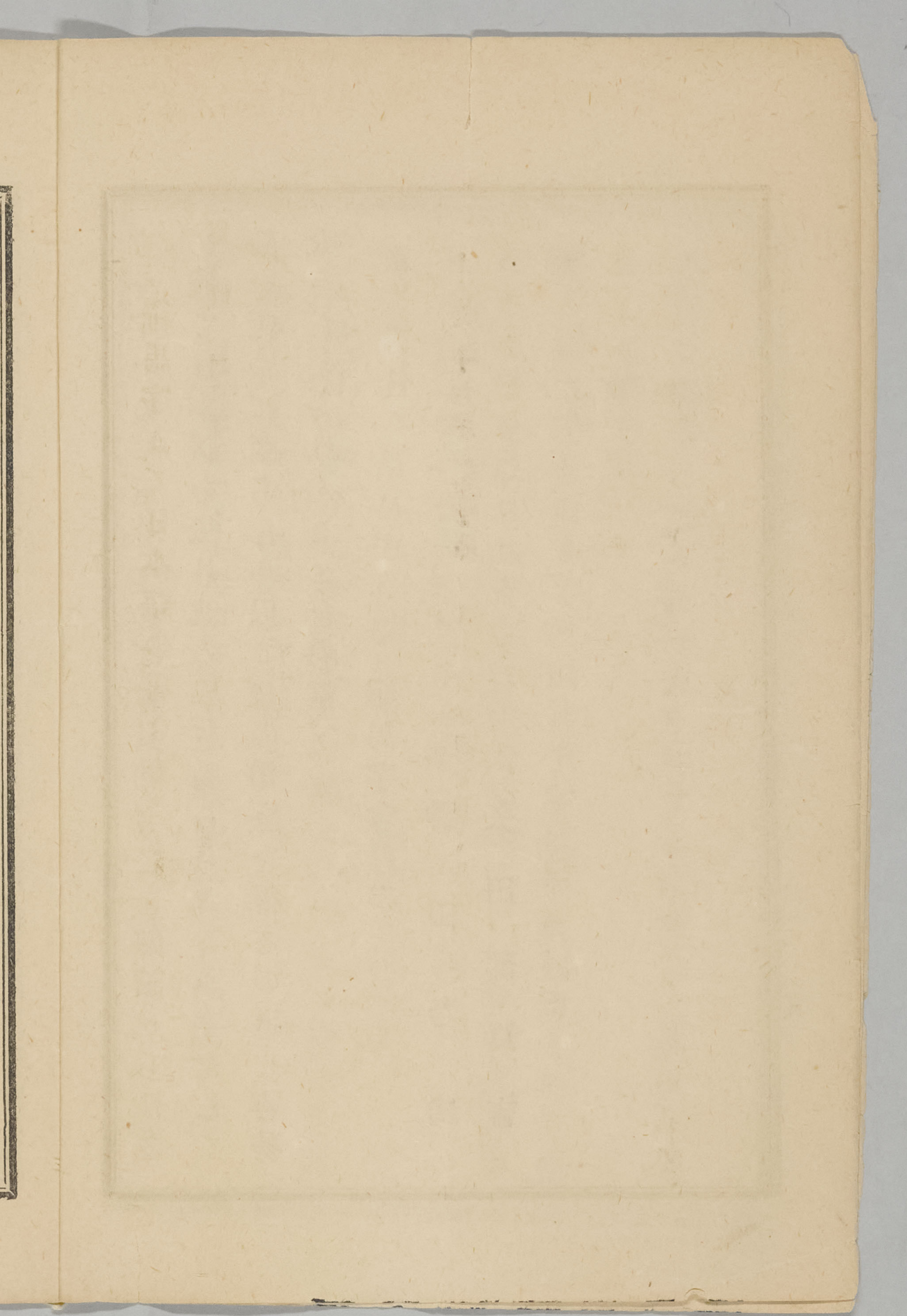
方を定むるに至りたれば會員諸君之を熟讀せられ之
に據て日本語を綴り彼の學び易あらざる漢字をして
跡と絶つに至らしめ以て眞の知識を得るの道を容易
ならしめられんことを希望す

羅馬字會幹事

神 田 乃 武

矢 田 部 良 吉

明治十八年四月



羅馬字よて日本語の書き方

第一條 羅馬字の二十六字にて其名の次の如し

ア ベ チ デ エ フ ゲ ハイ ジ カ マ ナ オ ペ ク ラ サ タ ウ ワ ヤ ゼ

a be chi de e fu ge ha i ji ka el ma na o pe ku ra sa ta u vu wa eks ya ze

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

上の二十六字の中L Q V Xの日本語を書くに用ひず

第二條 A I U E Oの五つの母字の假名文字の音を表のすこと次の

如し

A ア 例へば ami 網 an 安

I イ、イ 例へば iro 色 iro 居 iro 壹又「ヒ」を「イ」と讀むとき例へば iro 戀

U ウ 例へば uru 賣又「フ」を「ウ」と讀むとき例へば kan 買

E エ、エ 例へば ^{エビ}ebi 蝦 ^{エン}en 園 又「へ」を「エ」と讀むとき例へば ^{マヘ}mahe 前

O オ、オ 例へば ^{オト}oto 音 ^{チク}oku 屋 又「ホ」を「オ」と讀むとき例へば ^{カホ}kaoh 顔

但し「テニナハの「へ」及び「ナ」は ^ノno 及び ^モmo と書くべし又上の五つ

の母字はカキクケコ、サシスセソ等の假名文字の母音を表はすに

用ふ

第三條 長き音の母字は字の上に「^ー」の符標を附けて之を短き音と區

別す次の如し

^アA ^イI ^ウU ^エE ^オO

但しU、Oの外は用ふることを少し尙第八條より第十二條までを見

るべし

第四條 一つの子字と一つの母字とを以て組立てたる短き音を羅馬

字の順序に従ひ列ね記すこと次の如し

ya	ヤ	wo	ヲ	wa	ワ	pa	パ	ja	ジャ ヤ	ba	バ
yu	ユ					pi	ピ	ji	ジ	bi	ビ
ye	エ					pu	プ	ju	ジュ ユ	bu	ブ
						pe	ペ	jo	ジョ ヨ	be	ベ
						po	ポ			bo	ボ
						ra	ラ	ka	カ	da	ダ
						ri	リ	ki	キ	de	デ
						ru	ル	ku	ク	do	ド
						re	レ	ke	ケ		
						ro	ロ	ko	コ	fu	フ
						sa	サ	ma	マ	ga	ガ
						su	ス	mi	ミ	gi	ギ
						se	セ	mu	ム	gu	グ
						so	ソ	me	メ	ge	ゲ
								mo	モ	go	ゴ
						ta	タ	na	ナ	ha	ハ
						te	テ	ni	ニ	hi	ヒ
						to	ト	nu	ヌ	he	ヘ
								ne	ネ	ho	ホ
								no	ノ		

「ハ」を「ワ」と讀むときハ wa と書くべし例へばテニヲハの「ハ」及び終チハル

テニヲハの「ヲ」に限り之を用ふ其外の「ヲ」は皆〇と書くべし

テニヲハの「ハ」に限り ye を用ふ其外の「エ」の音ハ皆〇と書くべし

yo ヨ
 za ザ
 zu ズ
 ze ゼ
 zo ズ

第五條 二つの子字と一つの母字とを以て組立てたる短き音を羅馬字の順序に従ひ列ね記すこと次の如し

nya	ニヤ	bya	ビヤ		
nyu	ニユ	byu	ビユ		
nyo	ニョ	byo	ビョ		
				cha	チャ
pya	ピヤ			chi	チ
pyu	ピユ			chu	チュ
pyo	ピョ			cho	チョ
rya	リヤ	gya	ギヤ		
ryu	リュ	gyu	ギユ		
ryo	リョ	gyo	ギョ		
				hya	ヒヤ
sha	シヤ			hyu	ヒユ
shi	シ			hyo	ヒョ
shu	シュ				
sho	ショ			kya	キヤ
				kyu	キユ
tsu	ツ			kyo	キョ
				mya	ミヤ
				myu	ミユ
				myo	ミョ

此外に二つの音あり即ち

gwa グワ
 kwa クワ

此の二つの音の用ひ方は第七條を見るべし

第六條 長き音を書くには第三條の規則に従ふべし次に其例を擧ぐ

平常用ふる所の長き音を次に列ね記す

bā ㄅㄚ
bī ㄅㄟ
bū ㄅㄨ
bē ㄅㄟ
bō ㄅㄠ

gō gū fū dō chō chū byō byū bō

𪛗、合、豪、業
 偶
 風
 道、同、問、答
 長、重、朝、蝶
 胃、中、蟄
 病、謬、廟
 謬
 念、棒、乏、乏

kyū kō kū jō jū hyō hō gyō gyū

久、久、急
 高、后、浩、劫、光、氷
 空
 娘、帖、繞、丞
 柔、十、重
 評、冰、豹
 方、蓬、法、法、頰
 行、凝、堯、業
 牛、牛

ryū rō pyō pō pū ō nyō nyū nō myō mō kyō

京、共、喬、協、今、日
キヤウ キヨウ ケウ ケフ ケフ
 毛、盲
モウ マウ
 明、苗
ミヤウ メウ
 農、納、納
ノウ ノフ ナフ
 乳、乳、入
ニユウ ニウ ニフ
 尿、女、房
子ウ ニヨウ バウ
 應、翁、奧、押、王、大
オウ チウ アウ アフ ワウ
オホ
 南風
ナン プウ
 本邦、年、俸、説、法、説、法
ホン パウ チン ボウ セツ パフ セツ
 一、兵、六、俵
イツピヨウ ロク ペウ
 老、櫻、蠟、蠟
ラウ ロウ ラフ ロフ
 柳、柳、立
リュウ リウ リフ

zō zū yō yū tsū tō shō shū sō sū ryō

領、龍、料、獵
リヤウ リョウ レウ レフ
 數
スウ
 爭、奏、插
サウ ソウ サフ
 州、州、集、舅
シユウ シウ シフ シウ
 生、松、小、妾
シヤウ ショウ セウ セフ
 唐、東、答、答、遠、目
タウ トウ タフ トフ
トホメ
 通
ツウ
 有、有、由、邑、夕、暮
イユウ イウ ユウ イフ
 洋、洋、用、用、要、葉、漸
イヤウ ヤウ イヨウ ヨウ エウ エフ
ユフ グレ
ヤウ ヤウ
 融、通
ユウ ツウ
 造、雜、雜、增
ザウ ザフ ザフ ザフ

第七條

火、回、畫、貫、活及クワクワイクワククワンクワツび臥、外、願、月等グワグワイグワングワツの音ハ kwa, kwai, kwaku,

kwan, kwatsu, 及び gwa, gwai, gwan, gwatsu と書くカも ka, kai, kaku,

kan, katsu 及び ga, gai, gan, gatsu と書くカとも各人の好に任すべし

第八條

英、永、計、藝、清、税、丁、泥、寧、平、米、權、柄、明、禮等エイエイケイゲイセイゼイテイテイチイヘイベイケンバイメイレイの音ハ ei, ei, kei, gei, sei,

zei, tei, dei, nei, hei, bei, kempai, mei, rei と書くヱも ē, ē, kē, gē 等

と書く可らず

第九條

新嘗、警者、言譯、小キ、紀伊、引テ等ニヒナメメシヒイヒワケナヒサキイヒイの音ハ Niname, meshii, iivake,

chissaki, Kii, hiite と書き Niname, meshi 等と書くヰからず

第十條

思フ、請フ、追フ、添フ、迷フ、等オモコホオソマヨの動詞ハ omou, kou, ou, sou, mayou

と書き omō, kō, ō 等と書くヱべらず

第十一條

救フ、吸フ、縫フ、狂フ、振フ等スグスススの動詞ハ sukuu, suu, nuu, kurnu,

furuu と書き sukuu, suu, nuu 等と書くヱべからず

第十二條 云フなる動詞は *ni* と書くべし *yo* と書くべからず

第十三條 馬、梅の訓は假名にて「ウマ」とも「ムマ」とも書き「ウメ」とも「ムメ」

とも書けども羅馬字にては *uma*, *ume* と書くべし

第十四條 促まる音と假名遣ひの如何に關らず其次の音の子字を重

ねて之を示すべし但し次の音 *c* に始まるときは之を重ねずして前

に *t* を加ふべし例へば

kokka 國家 *shuppan* 出版 *mote* 以テ *sekkyō* 説教 *itsū* 一通 *tassha* 達者

nitshū 日中 *zetcho* 絶頂

第十五條 一つの音の終にある *n* 及び *m* は假名の「ん」の字に當る *m*、*b*、

p の前よりありて *h* *m* を用ひ其外は皆 *n* を用ふべし例へば

temmon 天門 *tembatsu* 天罰 *tempen* 天變 *tenki* 天氣 *tennen* 天然 *Tenno* 天王

第十六條 二つの語を以て成立ちたる語にして始の語は *n* より終り次

の語は母字又は y に始まるものはハイフン即ち「-」の符標を以て其
二つの語を區別すべし例へば *gen-an* 原案 *gen-in* 原因 *kan-yū* 姦雄の
如し *genan*, *genin*, *kanyū* と書けば下男、下人、加入の音となるなり

第十七條 文章を綴るに當り語の切り方は次の如くすべし

(第一) 總て獨立の語は別々に書くべし

但し二つ以上の語を以て成立ちたる語にして之を分斷せずんば
意味の疑ひしきもの或は頗る長きものはハイフンを以て之を分斷
するも妨なしと雖もハイフンの成るべきだけ用ひざるを宜しとす

(第二) *de*, *ga*, *ka*, *kara*, *koso*, *made*, *mo*, *ni*, *nite*, *no*, *to*, *wa*, *wo*, *ya*,
ye, *yori*, *zo* 等の助語は之を其附屬する所の語より離して書くべし
(第三) 動詞のみに附屬して他の詞に附屬せざる助語は動詞より離さ
ず書くべし例へば *yukishi*, *yukiki*, *yukite*, *yukazu*, *yukanu*, *yukedomo*,

yukitsutsu, yukuran, yukikeri, yukubeshi, yukeba, yukaneba, yukimasu.

但し助語二つ以上の音を以て成るときはハイフンを以て之を動詞より分断するも妨なし例へば yuku-bekarazu, yuki-kerashi.

第十八條 句點及び頭字の用ひ方は英吉利の文に異なることなし其概畧を次に示す

肝要なる句點六つあり即ち

(第一)、コンマ(第二); 半コロン(第三): コロン(第四)・止り(第五)? 疑問(第六)! 歎息

「,」は句切りの最小き區分を示すに用ひ「;」は稍大なる區分を示すに用ひ「:」は「;」を以て示したる區分より更に意味の完き區分を示すに用ひ「.」は句切りの意味完く終りたる時即ち一句切りの終りに用ひ「?」は疑問を表はす句切りに用ひ「!」は感歎を表はす句切りに用ふ

上の外に符號數種あり其重なるものゝ次の如し

一 横線

() 括弧

[] 鉤括弧

“ ” 引用

- ハイフン

「」は文句の組立急に變りたる時杯に用ひ「()」及び「[]」は挿註に用ひ「” ”」他の書物より文句を引用するとき又は文中に他の人の談話を其儘に寫すときに用ひ「-」は第十六條第十七條の場合に用ひ又は二行に跨りたる一つの語の其二つの語に非ることを示す爲に行の終に用ふ

頭字は一句切りの最初の語の初の字、固有名詞、尊稱等の初の字に用ふ
以上述る所は甚簡畧にして意味を盡さず唯句點、頭字等の重なる用ひ方を粗ぼ示すのみ

第十九條 羅馬字と假名との關係を一目して瞭かならしめんが爲に之を比較したる表を次に掲ぐ然れども羅馬字を以て日本語を書く

には假名に泥まらずして發音を標準となすべきこと勿論なり例へば第六條に「カフ」なる假名を カフ と書けり是れ「カフ」を「コー」と讀むときにもみ書くなり買カフと云ふ動詞を「カウ」と讀むときは kau と書くべきなり又假名の「ハ」は羅馬字にて書けば ha なり然るに「ハ」ハ屢「ワ」の音を帶ぶ斯かる場合には wa と書かざるを得ず例へば變 カハル kawaru 岩 イハ iwa の如し故に次の表を用ふるには能く注意して假名と發音との異同を辨別せざるべからず

假名と羅馬字との比較表

ra	rā	ka	ga	sa	za	ta	da	na	ha	ba	pa	ma	ya	ra	wa
ri	rī	ki	gi	shi	ji	chi	ji	ni	hi	bi	pi	mi	i	ri	ki
u	ū	ku	gu	su	zu	tsu	zu	nu	fu	bu	pu	mu	yu	ru	u
e	ē	ke	ge	se	ze	te	de	ne	he	be	pe	me	e(ye)	re	e
o	ō	ko	go	so	zo	to	do	no	ho	bo	po	mo	yo	ro	wo(wō)

kya	gya	sha	ja	cha	ja	ya	hya	bya	pya	mya	rya
kyu	gyu	shu	ju	chu	ju	nyu	hyu	byu	pyu	myu	ryu
kyo	gyo	sho	jo	cho	jo	nyo	hyo	byo	pyo	myo	ryo

$\left. \begin{array}{l} \text{kw} \\ \text{ka} \end{array} \right\} \text{gwa}$

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

Main body of handwritten text, appearing to be a list or series of entries, possibly in a foreign script or a specific dialect.

Vertical handwritten text on the left side of the page, likely a marginal note or a specific label.

国立国語研究所



1001353489

117

